

# 外壁塗膜防水材料

セブンウォール

シーラーレス

なみがた仕上げ S工法4工程  
水性1液 アクリルシリコン樹脂仕上げ

## 施工要領書

2020年6月改訂版



**Seven Chemical**  
**株式会社 セブンケミカル**

## 下 地 処 理

### 1. 下地適用範囲

既存塗装の有る外壁面・リシン仕上げ・吹き付けタイル／スタッコ仕上げ・単層弾性仕上げ面等。

### 2. 下地調整

- ① 下地は十分に高圧洗浄(15MPa/mm<sup>2</sup>以上)し、表面に塵埃、付着異物、カビ、藻等が残らぬよう十分に除去し下地を乾燥させてください。
- ② 下地のひび割れ幅が0.2mm～2.0mm未満の場合、ひび割れ筋をまたぎ左右25mm程度の幅で端部から延長50mm以上をスーパーセブン 0.5kg/m<sup>2</sup>以上で段差の無いように塗り付けてください。
- ③ 下地のひび割れ幅が2.0mmを越える部分では、樹脂注入、Uカットシール、シール工法により補修してください。
- ④ 欠損部周辺の脆弱部分は除去しワイヤーブラシなどでケレン清掃し発錆が有れば防錆処理を行ってください。また、部分的に露出している鉄筋、アンカー金物などがある場合、監督職員と協議し、健全部が露出するまでコンクリートをはつり、ワイヤーブラシ等でケレンを行い錆を除去し防錆剤を塗付け処理してください。
- ⑤ テストハンマー等により、剥落のおそれの有る浮きについて確認し、アンカーピン、充填工法で行ってください。
- ⑥ 増塗りを行う部位は、プレキャストコンクリート、ALC版、などの継手目地、建具回り、貫通部回りなどの防水上重要な部位、出隅、入隅、目地部などの膜厚の薄くなり易い部位、開口部回りなどのひび割れが発生し易い部位、下地の動きが激しい部位としてください。
- ⑦ リシン吹付面下地では、骨材の粗面が目立たない程度にケレンするか、セブンウォールシーラーレスをウールローラーで捨て塗りし平滑にしてから、再度セブンウォールシーラーレスを工程順に施工してください。
- ⑧ シーリング材は、JIS A 5758(建築用シーリング材)です。シーリング面に仕上げ塗材を塗る場合、シーリングが硬化した後、塗り重ね適合性に合った必要な処理を行ってください。
- ⑨ ひび割れ補修及び増塗りをする部分には、予め水性セブンウォールシーラーを塗付けてください。

セブンウォールシーラーレス4工程

□〔防水層の塗付方法〕 1回：粗目砂骨ローラー(多孔質ローラー)

工程	使用材料	希釈 (重量比%)	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗り回 数	工程間隔 (時間)	使用器具	
1	補修部への 下塗り	水性セブンウォール シーラー	無希釈	0.15	1	2以上	ローラー(中毛)、 エアレススプレー、 刷毛など
2	ひび割れ部 補修(注1)	スーパーセブン	無希釈	0.5	1	3以上	多孔質ローラー、 刷毛
3	増塗り (注2)	セブンウォール シーラーレス	水道水 (0~5)	0.5 ~1.0	1	3以上	多孔質ローラー、 刷毛、ゴムヘラ
4	下塗り	セブンウォール シーラーレス	水道水 (0~5)	1.0	1	5以上	多孔質ローラー (粗目)
5	(防水層)			1.0	1	16以上	
6	上塗り	セブンウォールトップ W-SS	水道水 (0~20)	0.15	1	5以上 (工程内)	ローラー(中毛)、 エアレススプレー、 刷毛など
7				0.15	1		

注 1:スーパーセブンは、ひび割れ幅0.2mm~2mm未満とし、ひび割れをまたぎ50mm程度の幅で延長50mm以上を端部に段差の無いように塗り付ける。

注 2:増塗りを行う部位は、プレキャストコンクリート、ALC版、などの継手目地、建具回り、貫通部回りなどの防水上重要な部位、出隅、入隅、目地部などの膜厚の薄くなり易い部位、開口部回りなどのひび割れが発生し易い部位、下地の動きが激しい部位とする。

□ 施工環境

- ① 低温(5℃以下)の場合、樹脂の乾燥硬化に支障をきたす場合があるため施工を避けてください。  
高温(気温 35℃以上、躯体温度 30℃以上)、及び湿度 80%RH以上の場合、塗膜乾燥、ローラー作業性及び仕上げ性に支障をきたす場合がありますので十分注意してください。
- ② 降雨降雪、霧発生のあるときは、施工を避けてください。
- ③ 風速 5m/sec 以上のときは、塗材の飛散被害・塗付けムラ等の支障をきたすので、十分風養生対策を行うか施工を避けてください。
- ④ 養生材には、ポリフィルム、クラフト紙、新聞紙などを、粘着テープで貼り付け、塗装面以外の箇所を汚染しないようにしてください。
- ⑤ セブンウォールシーラーレス及び、セブンウォールトップ WSS は、水性ですので保管場所に気を付け凍結などに十分注意してください。

## セブンウォールシーラーレスの4工程標準施工方法

### 1. 養生

### 2. 施工前の注意

施工に入る前に試験塗りをを行い、パターン、色を十分に確認してください。

### 3. 補修部への下塗り

ひび割れ部(スーパーセブン塗り付け)及び、部分補修した箇所へは下地と主材との接着をより強固にするために水性セブンウォールシーラーをムラなく塗付けてください。

### 4. スーパーセブン多孔質ローラー塗り

幅 0.2 mm以上 2.0 mm未満のひび割れ部及びひび割れ部の延長 50 mm以上に 4 インチ多孔質ローラーまたは刷毛で塗付けてください。

### 5. 増塗り処理 刷毛又はローラー塗り。

プレキャストコンクリート、ALC 版パネル等の継手目地、建具周り、貫通部周りなどの防水上重要な部位、出隅、入隅、目地部等の膜厚が薄くなりやすい部位、開口部周り等のひび割れが発生し易い部位、下地の動きが激しい部位へ刷毛又はローラーで 0.5～1.0kg/m<sup>2</sup>塗付けてください。

### 6. 下塗り(防水層)

① 材料は、上下層を攪拌機で、気泡の入らないよう均一に混合して使用する。

② 気温、湿度等の状況により必要に応じて 0～5%の水道水で調整する。

③ セブンウォールシーラーレスを多孔質ローラー(粗目)で 1.0kg/m<sup>2</sup>均一にムラなく塗付する。

④ 下塗りは、防水層として機能を果たせるもので、十分に注意して均一にムラなく仕上げる。

⑤ 5 時間以上乾燥させ2回目塗りに進む。

⑥ 1 回目塗りをした防水層塗膜の上に、密な造膜形成を計るため、セブンウォールシーラーレス 1.0kg/m<sup>2</sup>を1回目同様に重ね塗りする。

⑦ 24 時間以上乾燥させ、次の工程に入る。

### 7. 上塗り

セブンウォールトップは、防水層の汚れを防ぎ、美観を保持するため、使用します。セブンウォールトップ W-SS を、垂れ、ムラなどに注意して、エアレススプレー、ローラー、刷毛などで均一に規定量を 2 回塗りして仕上げてください。

セブンウォールトップ W-SS の水道水希釈量は、ローラー仕上げの場合 0～10%(重量比)、スプレーの場合 0～20%(重量比)です。よく混合した後、所要量(2 回塗り合計)0.3kg/m<sup>2</sup>以上を使用して仕上げてください。

## 注 意 事 項

### 1. 施工上の注意事項

- ① 使用材料の配合、希釈量、可使時間をあらかじめ確認してください。
- ② 施工中に降雨及び降雪にさらされないようにしてください。
- ③ 降雨、多湿などにより結露のおそれの有る場合、又は強風時には、原則として行わない。
- ④ 5℃以下の場合、施工を行わない。但し、やむを得ず施工する場合は、板囲い、シート掛けなどで覆うほか、ヒーターなどで採暖してください。  
高温(気温 35℃以上、躯体温度 30℃以上)、及び湿度 80%RH以上の場合、塗膜乾燥、ローラー作業性及び仕上げ性に支障をきたす場合がありますので十分注意してください。
- ⑤ 近接する他の部材や建物を汚損しないように、ビニル張り、板囲い、シート掛けなどの適切な養生を行ってください。
- ⑥ 居室等内装で使用する場合や、溶剤を取り扱う場合には通気換気を十分に行ってください。
- ⑦ 下塗り材、上塗り材に溶剤系塗料を使う場合、施工時には保護具などを着用し、溶剤による中毒を起さないよう十分注意してください。
- ⑧ 各施工工程において、気温の低下や湿度の上昇により乾燥硬化が遅れることが有るので換気も重要です。
- ⑨ シーリング面に塗装を行う場合は、シーリング材が硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。
- ⑩ 養生テープを外す場合、端部をナイフカットし剥がしてください。
- ⑪ 所要量などの確認方法は、単位面積当たりの使用量によることを標準としてください。

### 2. 保管上の注意事項

- ① 風雨、直射日光を避け、常温保管を心掛ける。
- ② 水性材料の保管は0℃以上の場所で保管する。
- ③ 施工前にSDSを確認ください。

使用材料一覧表

製品名	容量	荷姿
水性セブンウォールシーラー (ひび割れ及び補修箇所への下塗り材)	15kg 1kg	石油缶
セブンウォールシーラーレス (下塗り防水層)	16kg	石油缶
スーパーセブン (ひび割れ補修塗り材)	3kg	ポリ缶
セブンウォールトップ W-SS (水性 1 液型アクリルシリコン樹脂上塗り材)	15kg セット	石油缶

 **株式会社 セブンケミカル**

東京都新宿区西新宿 7-8-13 栗原ビル 3 階

TEL 03(3366)2616 FAX 03(3366)2619

e-mail kimura@seven-chemical.co.jp

e-mail kitajima@seven-chemical.co.jp